

令和元年6月19日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12234

研究課題名(和文) 看護師の認知行動療法実践者のためのスーパーバイザー養成プログラムの作成と評価

研究課題名(英文) Development and Evaluation of Supervisor-Training Program for Nurses Engaged in Cognitive-Behavioral Therapy

研究代表者

岡田 佳詠 (OKADA, YOSHIE)

国際医療福祉大学・成田看護学部・教授

研究者番号：60276201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：看護師の認知行動療法(以下、CBT)のスーパーバイザーを養成するプログラムの作成と評価を目的に、スーパーバイザーの態度・スキルに関する質的分析、ランダム化比較試験によるCBTを実践する看護師へのグループスーパービジョン(以下、SV)の効果検証を行った。その結果、看護師の臨床に沿う、本研究の成果を活かしたプログラムの修正およびそのプログラムのランダム化比較試験が今後必要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた成果は、今後、国内の認知行動療法を実践する看護師のスーパーバイザーを養成するプログラムの修正および精練に役立てることができ、看護師の臨床の場に効果的なプログラムの開発につながる。臨床に沿ったSVができる看護師を養成できれば、看護師の認知行動療法のスキルの向上が期待でき、認知行動療法を受ける患者の回復に一層貢献できると考える。

研究成果の概要(英文)：A qualitative analysis on supervisors' attitudes and skills as well as a randomized controlled study on effectiveness of group supervision (SV) for nurses engaged in cognitive-behavioral therapy (CBT) were conducted in order to develop and evaluate CBT Supervisor-Training Program for nurses. According to the results, it was suggested that the program should be revised according to the clinical practice of nurses as indicated in this study and that a randomized controlled study of the revised program will need to be conducted in the future.

研究分野：精神看護学

キーワード：認知行動療法 看護師 スーパービジョン スーパーバイザー 教育研修

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

昨今、国内では、うつ病等に有効な認知行動療法(以下、CBT)を看護師が実施する体制整備が重視され、看護師への CBT 教育研修に関する課題が山積している。そのなかで、質が担保された CBT 実践のための看護師対象の教育研修プログラムの作成と効果検討がされ、CBT 実践におけるスーパービジョン(以下、SV)を導入した教育研修プログラムの前後比較による効果も検討されてきた。しかし、国内では CBT の実践経験のある看護師のスーパーバイザーが圧倒的に不足しており、今後看護師の CBT 実践者を教育研修する上での障壁となることは避けられない。

2. 研究の目的

本研究では、看護師の CBT 実践者を教育研修するために必要なスーパーバイザーの態度・スキルに関する質的分析、ランダム化比較試験による CBT を実践する看護師へのグループスーパービジョン(以下、SV)の効果検証を通して、看護師のスーパーバイザーを養成するプログラムの作成と評価を目的とした。

3. 研究の方法

1) 看護師の CBT 実践者の教育研修に必要なスーパーバイザーの態度・スキルに関する質的研究

(1) 研究デザイン

質的帰納的研究

(2) 方法

対象者は、精神科臨床経験が3年以上あり、看護師の CBT 実施に対する SV の実施経験のある、あるいは CBT の個別 SV を受けた経験がある看護師7名であった。

募集は、看護師対象の CBT 関連ホームページ「看護のための認知行動療法研究会」(<http://www.cbtns.com/>)の運営団体からの承諾後、ホームページ上で行った。研究協力希望者とインタビューの日時・場所等について調整し、インタビュー開始前、研究責任者が研究の趣旨・倫理的配慮等について文書を用いて説明し、同意書を取得した。

インタビューの実施期間は、2018年1月~9月で、一人1回、30~40分であった。フェイスシートの記載後、SVを実施した経験、あるいは個別SVを受けた経験から認識したSVに必要な態度やコミュニケーションなどのスキルについて、インタビューガイドに沿って話を聞いた。

インタビュー内容は対象者の同意を得たうえで、ICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。SVに必要な態度・スキルを念頭に置き、逐語録の一行一行を丁寧に読み込み、コード化し、さらに意味内容の類似性や相違性の点から比較検討しながらカテゴリー化した。カテゴリー間の関連性も比較検討しながらコアカテゴリーを抽出した。

倫理的配慮として、研究開始前に国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得た(17-10-135)。研究協力者には、インタビュー開始前に、研究の趣旨・倫理的配慮等を、文書を用いて説明し、同意を得た。倫理的配慮の内容には、研究協力は任意であり、いつでも断ることができること、断っても不利益を被らないこと、プライバシーの保護、関連学会に発表する際は、研究協力者を特定できる情報を含まないこと、またインタビューのなかで研究協力者のみならず、他者の個人情報の特定につながる発言をしないことを含めた。

2) CBT を実践する看護師へのグループ SV の効果検証

(1) 研究デザイン

ランダム化比較試験

(2) 方法

対象者は、2017年4月～2018年7月までに、看護師対象のSVを導入したCBT教育研修に参加した看護師18名であった。選定条件は、精神科臨床経験が3年以上あり、CBTを臨床に活かすという動機があること、除外条件は、これまでに個人あるいは集団でのSVを受けた経験のないことであった。

全員が計5日間のプログラムの第1・2日目でCBTの概要と方法について、講義・演習を受講した。その後、グループSV群とフォローアップ群に無作為に割付された。グループSV群には月1回で計3回、各自がCBT実施例を持ち寄り、スーパーバイザーのもと、全員で事例検討した。フォローアップ群にはCBTの自己学習を設定し、グループSV群の最終回と同日にフォローアップ研修を行った。

スーパーバイザーには、国内外のSVに関する資料等を参考に本研究の一環で作成したスーパーバイザー養成のための講義、事例を用いたCTRS測定方法の学習を計1日実施した。

データ収集は、開始前と2日目、5日目のグループSV終了後またはフォローアップ研修後、終了1ヶ月後の4時点で認知療法認識尺度(Cognitive Therapy Awareness Scale; CTAS)と一般性セルフ・エフィカシー尺度(General Self-Efficacy Scale; GSES)、第2日目と第5日目、終了1ヶ月後の3時点で問題解決行動自己評価尺度(Problem Solving Scale for Nurses; PSSN)を測定した。また第2日目と第5日目の研修内で面接場面を設定し、独立した測定者が認知療法尺度(Cognitive Therapy Rating Scale ; CTRS)で評価した。分析方法は二元配置分散分析を実施した。

倫理的配慮として、研究開始前に国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得た(17-10-60)。研究協力者には、研修開始前に、研究の趣旨・倫理的配慮等を、文書を用いて説明し、同意を得た。倫理的配慮の内容には、研究協力は任意であり、いつでも断ることができること、断っても不利益を被らないこと、プライバシーの保護、関連学会に発表する際は、研究協力者を特定できる情報を含まないことを含めた。

4. 研究成果

1) 看護師のCBT実践者の教育研修に必要なスーパーバイザーの態度・スキルに関する質的研究に関する成果

SVでのスーパーバイザーの効果的な態度・スキルとして、まずSVを<構造化する>、<スーパーバイザーの能力やニーズの見極め>をし<動機付けを高める>ことがあった。またスーパーバイザーの<良いところを伝え、後で改善点を伝える>こと、改善点は<スーパーバイザー自身で気づける>ようにし<共感・承認する>こと、一方、具体的なスキルを<示唆する><治療的な基本スキルを強化する>、また<看護師だからできることを伝える>こともあった。

看護師へのSVでは患者とのCBTと同様の態度・スキルが必要で、看護師自身での気づきを承認すること、治療的な基本スキルの強化と看護師の立場でのCBTの意味づけの必要性も示唆された。本研究で、SVに必要な態度とスキルは示唆されたが、対象数は少なく飽和していないため、データ蓄積が必要である。

2) CBT を実践する看護師へのグループ SV の効果検証に関する成果

看護師 18 名はグループ SV 群 9 名とフォローアップ群 9 名に割付けられ、終了 1 ヶ月後まで終了した者はグループ SV 群 5 名とフォローアップ群 8 名であった。看護師経験年数は平均 14 年 (SD=9)、精神科看護師経験年数は平均 7.4 年 (SD=4.6)、開始前の CBT 研修受講時間は平均 11.8 時間 (SD=11.2)、開始前の CBT 実施数は平均 1.4 件 (SD=4.7) であった。分散分析の結果、CTAS、GSES、PSSN に有意差はなかった。CTRS は時点間での有意差はあった ($F=16.4, p=.002$) が、交互作用はなかった。

研修 2 日目と 5 日目の間で CTRS に変化がみられた理由は、2 日目までの研修内容が、その後の対象者の看護実践に活用されたことが示唆される。しかし、GSV が有効とは示されず、CTAS、GSES、PSSN にも有意差がみられなかったことから、今後、継続して検討する必要がある。

3) 総合考察

本研究では、ランダム化比較試験による看護師への認知行動療法のグループ SV の効果は示されていないが、質的研究により、看護師への SV に必要な態度・スキルは示唆された。看護師のスーパーバイザー養成プログラムは、現時点では SV に関する講義と CTRS 測定方法の学習のみで、看護師の臨床に沿ったものとは異なるため、本研究の成果を活かした修正が必要であろう。有効なスーパーバイザー養成プログラムの開発には、これらの研究データの蓄積を継続し、それによって修正されたプログラムのランダム化比較試験の実施が求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

岡田佳詠・看護師の認知行動療法の実施および研修受講状況に関する調査、精神科治療学、31(2)、211-219、2016。

熊野宏昭、田中恒彦、丹野義彦、岡田佳詠、中川敦夫、菊地俊暁・認知行動療法の質を維持するために 看護師の CBT の質を確保するために、認知療法研究、10(2)、95-105、2017。

岡田佳詠・看護領域における認知行動療法教育研修、精神療法、増刊第 4 号、41-46、2017。

大野裕、岡田佳詠、北川信樹、丹野義彦、藤澤大介・これからの CBT の教育について、精神療法、増刊第 4 号、184-204、2017。

〔学会発表〕(計 21 件)

Yoshie Okada. The Correlation between CBT by Psychiatric Nurses and Lecture Attendance Conditions in Japan, 8th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (WCBCT) (Melbourne), June 25, 2016。

岡田佳詠・中野真樹子、曾根原純子・うつ病看護のための認知行動療法プロトコール(ワークショップ)、日本精神保健看護学会第 26 回学術集会・総会(滋賀県大津市)、2016 年 7 月 3 日。

岡田佳詠・中野真樹子、北野進、則包和也・看護実践への認知行動療法の活用、第 17 回日本認知療法・認知行動療法学会研修会(大阪府大阪市)、2016 年 11 月 23 日。

岡田佳詠・大会企画シンポジウム 1 認知行動療法の質を維持するために 看護師の認知行動療法の質を確保するために、第 16 回日本認知療法学会(大阪市)、2016 年 11 月 24 日。

岡田佳詠・看護師に対する認知行動療法の教育研修プログラムにおけるグループスーパービジョンの有用性と課題、第 16 回日本認知療法学会(大阪府大阪市)、2016 年 11 月 25 日。

- 岡田佳詠．精神看護の未来を変えよう！ 認知行動理論をベースにした認知行動療法によるアプローチ、第23回日本精神科看護専門学術集会（新潟県新潟市）2016年11月25日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．看護教育において認知行動療法をどう教育するか（交流集会）、第36回日本看護科学学会学術集会（東京都千代田区）2016年12月10日．
- 岡田佳詠．（一社）看護のための認知行動療法研究会設立記念講演会 看護師の認知行動療法の動向と展望、一般社団法人看護のための認知行動療法研究会設立会（東京都文京区）、2017年2月12日．
- 岡田佳詠．認知行動療法の多職種への広がり 看護への活用の有用性、JAPAN PSYCHOTHERAPY WEEK（神戸市）2017年5月7日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．看護における認知行動理論・認知行動療法の教育体制の現状と課題（ワークショップ）、日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会、2017年6月25日．
- 重田ちさと、岡田佳詠．患者から暴力を受けた精神科看護師の認知・気分・行動・身体状態の関連、日本精神保健看護学会第27回学術集会・総会、2017年6月24日．
- 岡田佳詠．認知行動療法で描く精神看護の未来、一般社団法人 看護のための認知行動療法研究会 第1回総会（東京都品川区）2017年9月30日．
- 岡田佳詠．CBGTの更なる普及 看護の視点から、集団認知行動療法研究会第8回学術集会、2017年11月19日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．看護師の認知行動療法教育研修におけるグループスーパーバイザーの効果的なかわり、第37回日本看護科学学会学術集会（仙台市）2017年12月17日．
- 岡田佳詠．精神科看護師の挑戦が未来を変える 認知行動療法ベースのアプローチ、茨城県立こころの医療センター（笠間市）、2018年6月14日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．精神科看護師へのスーパービジョン 認知行動療法の質の確保のために（ワークショップ）、日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会（東京都清瀬市）2018年6月23日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．看護師に対するグループスーパービジョンを導入した認知行動療法研修プログラムの効果 質的分析結果から、第18回日本うつ病学会、平成30年7月28日．
- 岡田佳詠．認知行動療法を実践する看護師へのグループスーパービジョンの効果検証-2 ケールまでの問題解決行動力への効果の検討、国際医療福祉大学学会第8回学術大会、2018年8月26日．
- 岡田佳詠 大会企画シンポジウム12 集団認知行動療法をエビデンスにする Mixed Methods Research（混合研究法）による試み、第18回日本認知療法・認知行動療法学会（岡山県岡山市）2018年11月24日．
- 岡田佳詠、白石裕子、國方弘子．看護基礎教育における認知行動療法の教育の試みと課題（交流集会）第38回日本看護科学学会学術集会（愛媛県松山市）2018年12月15日．
- ②1Yoshie Okada, Attitudes and skills necessary for supervision of cognitive behavioral therapy for nurses (1st report)、22st EAFONS(22st East Asian Forum of Nursing Scholars) (Singapore), January 17, 2019.

岡田佳詠．認知行動理論に基づく精神看護過程 よくわかる認知行動療法の基本と進め方、中央法規出版、2016．

岡田佳詠．第6章 カウンセリングと心理療法、系統看護学講座 基礎分野 人間関係論、医学書院、104-124、2018．

岡田佳詠．3．治療と予防 1．精神療法（心理療法）F．認知行動療法、ナースの精神医学 改訂5版、中外医学社、2019．

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：白石 裕子、國方 弘子、北野 進、中野 真樹子、矢内 里英、吉永 尚紀、根本 友見、天野 敏江、

ローマ字氏名：Yuko Shiraishi, Hiroko Kunikata, Kitano Susumu, Makiko Nakano, Rie Yanai, Naoki Yoshinaga, Tomomi Nemoto, Toshie Amano

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。